

「やらされ探究」から「マイ探究」へ!

生徒が主体的に取り組む学習であるはずの探究学習に「やらされ感」を抱く生徒、教師は少なくない。探究学習を生徒、教師が自分事化し、よりよいものとするためにはどうすればよいか、事例を通じて考える。

生徒個人の「放っておけない課題」を重視し、 公欠制度などの整備で生徒の探究学習を支援 長野県松本県ヶ丘高校 あがたがおか

ターニングポイント

- ✓ 生徒が設定する課題を、SDGsをテーマとしたものに限定しないようにした
- ✓ 社会に出て、多様な人とかかわりながら自分の興味・関心を深める機会をつくった

生徒の興味・関心に基づいた 課題の設定を重視

2018年度に探究科を設置した長野県松本県ヶ丘高校。同科では当初、地球規模での対応が求められるSDGsの17の開発目標に基づいた課題を生徒が設定する探究学習に取り組んでいた。大学や企業、研究機関などと連携した同校の探究学習は地域にも広く認知されるようになったが、生徒の探究学習に伴走する教師たちは課題も感じていたと、探究科主任の中村祐介先生は振り返る。

「SDGsをテーマに設定する課題を考える過程で、自分の興味・関心の追究と社会貢献の両立に悩む生徒もいました。そうした生徒に伴走する中で、必ず社会貢献につながるような課題を設定しなくてもよいのではないか、

自分の興味・関心を第一に課題を設定できるようにした方が、生徒の学びがより主体的になるのではないかと考えるようになりました」

探究学習に関するコンクールなどで優秀な成績を収める生徒もいたが、社会的なニーズの高さや学術的な新奇性よりも、「考えて、実践し、検証する」という学びの過程にこそ探究学習の価値があると考えた同校の教師たちは、SDGsをテーマとする課題の設定から、生徒一人ひとりが自分の興味・関心に基づいて課題を設定する探究学習へと舵を切った。

多様な人を巻き込みながら、 探究学習をキャリア形成につなげる

現在の同校の探究学習は、1年次の4月から7月まではインタビューやデータ分析の方



宮木 慧美
一般社団法人KOKO代表理事
探究コーディネーター
みやき・さとみ
同校を担当して7年目。



栢木 駿輔
2学年探究科担任
かやき・しゅんすけ
同校に赴任して3年目。数学科。



押澤 慧
1学年探究科担任
おしざわ・けい
同校に赴任して2年目。数学科。



中村 祐介
探究科主任
なかむら・ゆうすけ
同校に赴任して6年目。理科。

お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任

図 自分の興味・関心に基づいて取り組む生徒の探究学習を支える同校の取り組み

1 毎年度4月に、全校生徒がフィールドワークを体験する「探究学習の日」を開催。1年生はグループで謎解きをしながら松本市街を歩き、探究学習に必要な視点を身につけるとともに、一緒に探究学習に取り組む仲間をつくる。(写真)



謎解きミッションをクリアするため、松本市内をグループで散策する生徒たち。

2 1年間で3日間、探究学習のための欠席を公欠と認める特別公欠制度を導入。企業や大学を訪問するなど、平日での活動が必要な場合に同制度を利用できる。25年度は2年生の約4割が、3日間の公欠日を使い切った。

3 2年次の2月末から3月まで、2年生全員が探究学習を深めるために、海外または国内に個別校外研修（探究科の修学旅行）に臨む。25年度は海外9カ国12コース、国内12コースの個別校外研修が実施された。航空券やビザ（査証）も生徒自身で手配する。(写真)



ある生徒は、大韓民国の大学が主催するプログラムに参加。韓国語の授業を受けたり、美容やダンスなどの韓国文化を体験する活動に取り組んだりした。

※学校資料を基に編集部で作成。

学校概要

設立	1879（明治12）年
形態	全日制／普通科・探究科（自然探究科・国際探究科）／共学
生徒数	1学年約320人
2025年度卒業生進路実績	国公立大は、北海道大、東北大、筑波大、千葉大、東京外国語大、東京農工大、金沢大、信州大、名古屋大、国際教養大、東京都立大などに132人が合格。私立大は、慶應義塾大、早稲田大などに延べ458人が合格。

法を身につける「スキル学習」に、8月から11月まではグループで地域の課題を探究する「信州学」に取り組む。

「企業や市役所などに協力してもらっている信州学では、地域をよりよくするアイデアをグループごとに考えながら、探究学習の進め方を学びます。2年次からの個人課題探究で取り組む課題の設定につながるため、スキル学習も信州学も、机上での学びにとどめず、いろいろな人たちがかわることを通じて自分が知らない世界を知ること大切にしています」（1学年探究科担任・押澤慧先生）

個人課題探究では、2年次の1月に開催される課題研究発表会に向けて、2年生全員が自分の設定した課題を探究する。

「個人課題探究の課題の設定にあたっては、『社会の役に立ちそうもないようなテーマ、自分以外の人は興味・関心を持たないようなテーマで課題を設定しても構わない』と、生徒に明確に伝えていきます。そして、設定した課題やテーマが現代を生きる私たちにとって看過できないものであるかどうか以上に、その課題やテーマに自分がどれだけ、そしてなぜ興味

味・関心があるのかを語り、聞く人をわくわくさせてほしいと説明しています」（2学年探究科担任・栢木駿輔先生）

近年、生徒が設定した課題は、森林病虫害対策、防災・防犯アプリの開発、印象派絵画の科学的分析、さらには自分にとつての最良の朝のルーティーンなど、多岐にわたっている。教師たちは「探究テーマのスケールを教師が狭めないことが大切」と口をそろえる。

「生徒の探究テーマの中には担当教師の理解の範ちゅうを超えたものや、正直、教師は興味・関心を持ってないものもあります。そのようなものだったとしても、私たち教師が『あなたはそのテーマのどこを面白いと思ったか教えてもらえるかな？』などと尋ねれば、生徒の壁打ちの相手になれます」（中村先生）

探究コーディネーターとして同校の探究学習を支援する一般社団法人KOKO代表理事の宮木慧美氏は、「自分の興味・関心を追究する探究学習は究極のキャリア教育」と語る。

「松本県ケ丘高校の先生方は、探究学習を多様な人を巻き込む学びにすることを大切にしています。実際に町に出て、いろいろな人とかかわりながら取り組む探究学習は、生徒の進路の可能性を広げていると感じます」

今後は生成AIを活用したデータ分析などもスキル学習に組み込むことを検討したいと語る中村先生。1人でも多くの生徒が自分の興味・関心に基づいた探究学習に取り組めるよう、これからもその支援のあり方や方法を追究していく考えだ。